

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立西原小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 37人

② 算数 37人

5 留意事項

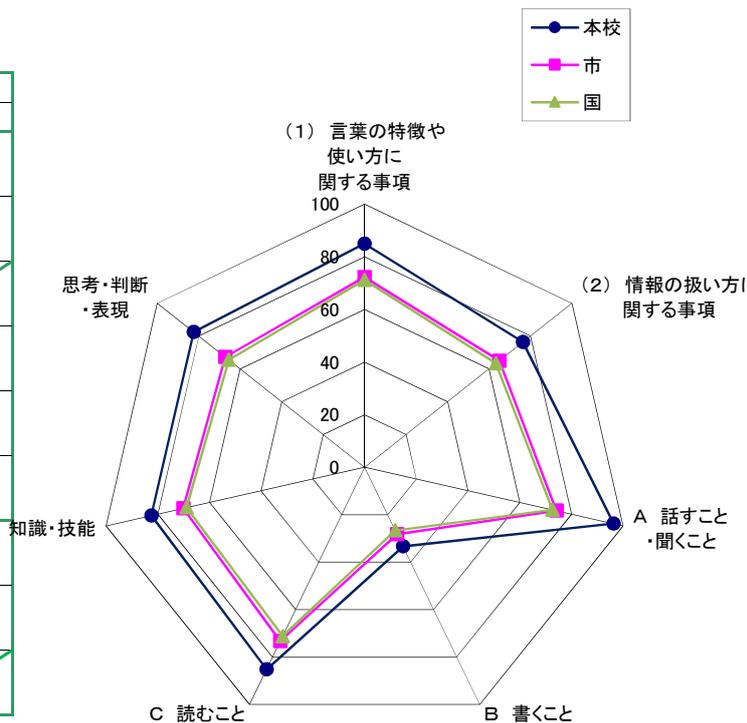
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立西原小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	85.0	72.3	71.2
	(2) 情報の扱い方に関する事項	76.4	65.0	63.4
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	96.3	74.2	72.6
	B 書くこと	33.3	28.2	26.7
	C 読むこと	85.2	73.3	71.2
観点	知識・技能	82.5	70.2	68.9
	思考・判断・表現	82.5	67.2	65.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

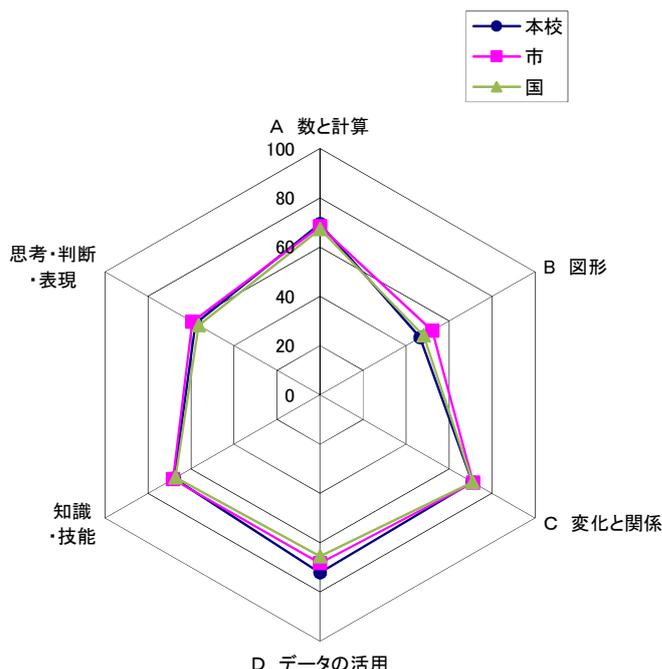
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	<p>平均正答率は、全国の平均正答率をすべての項目で上回った。</p> <p>○文章の中で使われている言葉を漢字に書き直す問題では、正答率が100%または、全国の平均正答率を10ポイント以上上回った。</p> <p>●同音異義語のある言葉を漢字に直す問題では、全国の平均正答率を上回っているが、正答率が62.2%と低い。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>・言葉の意味を正しく理解し、同音異義語であっても文中で正しく使うことができるように漢字練習を指導していく。また、計画的に既習漢字の復習を行うことで更なる定着を図る。</p>
(2) 情報の扱い方に関する事項	<p>平均正答率は、全国の平均正答率をすべての項目で上回った。</p> <p>○情報をどのように整理しているのかについて説明したものとして適切なものを選択する問題では、全国の平均正答率を15.7ポイント上回った。</p>	<p>・調べ学習を行う時には、必要な情報を取捨選択してメモを取るよう指導することで、情報を自分で整理する力を高める。</p>
A 話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、全国の平均正答率をすべての項目で上回った。</p> <p>○インタビューをして分かったことをまとめて書く問題では、全国の平均正答率を24.4ポイント上回った。</p>	<p>・授業の中で「友達が言いたかったことは何か」考えさせる時間を設けることで、相手が伝えたいことを正確に捉えることができるようにする。また、スピーチやインタビュー活動などを通して自分が伝えたいことを簡潔に伝える力を養う。</p>
B 書くこと	<p>平均正答率は、全国の平均正答率を上回った。</p> <p>●カードに書かれた文章をもとに、分かったことを文章で書く問題では、全国の平均正答率を5.7ポイント上回ったが、正答率が32.4%と低い。</p>	<p>・各教科の学習において振り返りを書く時、「分かったことを何行以上で書く」「学んだことをもとに自分の考えを書く」など、題意を捉えて書くことに慣れさせる。</p>
C 読むこと	<p>平均正答率は、全国の平均正答率をすべての項目で上回った。</p> <p>○資料を読んで分かったことをメモにまとめる時、当てはまるものとして適切なものを選ぶ問題では、全国の平均正答率を16.4ポイント上回った。</p> <p>●資料を読んで分かったことをもとに、自分ができそうなことをまとめて書く問題では、全国の平均正答率を16.8ポイント上回ったが、正答率が73.0%と低い。</p>	<p>・説明文や物語文を読む時に、筆者が読み手に伝えたいことは何か考えながら読むとともに、それに対して自分はどう思うのか文章にまとめる活動を行う。</p>

宇都宮市立西原小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	69.4	68.4	67.3
	B 図形	46.5	52.2	48.2
	C 測定			
	C 変化と関係	70.8	71.2	70.9
	D データの活用	72.2	68.3	65.5
観点	知識・技能	67.9	68.4	67.2
	思考・判断・表現	57.9	59.4	56.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	<p>平均正答率は全国、市の平均より高かった。</p> <p>○乗法を用いて生活上の問題を解決する問題や、分配法則に関する問題では、全国の平均正答率を上回った。</p> <p>●式の意味を問う問題では、平均正答率が全国平均を約8ポイント下回った。</p>	<p>・問題文から式を立てるだけでなく、式に合う問題文を考えさせる場面を意図的に設定し、式が何を表しているのか的確に言語化できるよう指導する。</p>
B 図形	<p>平均正答率は全国、市の平均より低かった。</p> <p>○テープを切ることができる図形の面積の大小に関する問題では、全国の平均正答率を上回った。</p> <p>●テープを切って正三角形を作るために角度を調整する問題では、全国平均を8ポイント以上下回った。</p>	<p>・もとの図形を折ったり切ったりしてできる図形について考える機会を算数の授業の中で発展的に扱うようにする。</p> <p>・図形操作がイメージしにくい場合は、具体物を実際に操作させて、イメージがつかめるよう支援していく。</p>
C 変化と関係	<p>平均正答率は全国、市の平均より低かった。</p> <p>○5脚の椅子を重ねる場面において、高さの変化の規則性を考える問題では、全国平均を上回った。</p> <p>●椅子4脚の重さが7kgであることを基に、48脚の重さの求め方と答えを書く問題では、全国平均を9ポイント以上下回った。</p>	<p>・正しく立式し計算するだけでなく、そのような式になる根拠を言葉で書いたり話したりする機会を算数の授業において積極的に設けることで、根拠を言語化できる児童を育てていく。</p>
D データの活用	<p>平均正答率は全国、市の平均より高かった。</p> <p>○2つのグラフから分かることを、与えられた観点に沿って答える問題では、全国平均を16ポイント以上上回った。</p> <p>●二次元の表から読み取れる内容の根拠を示す設問では、全国平均を10ポイント以上下回った。</p>	<p>・アンケートの集計結果をパソコンに任せるだけでなく、時にはアナログで集計して表にまとめる活動を行うようにすることで、表の見方に慣れさせる。特に二次元の表は触れる機会が少ないため、教師が係活動などにおいて意図的に場面設定をしていく。</p>

宇都宮市立西原小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「人が困っているときは、進んで助けていますか」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問について、肯定的回答の割合が国や県と比べて高かった。児童会の縦割り班活動や縦割り清掃で異学年の児童と関わったり、人権に関する集会活動を行ったりしていることにより、思いやりの気持ちが育まれていると考えられる。また、道徳の学習で、思いやりや親切について学んだことが、生活の中で実践されていると考えられる。今後も、各教科や特別活動などを通して、児童が互いに助け合ったり、一人一人を大切にしたりできるように支援していく。

●「学校に行くのは楽しいと思いますか」「友達関係に満足していますか」「学校生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」の質問について、肯定的回答の割合が国や県と比べて低かった。普段の行動観察や教育相談などを通して、友人関係や学習面、その他の不安や悩みがないか確認したり、保護者との連絡を密にしたりしながら明るい学校生活を送れるように支援していく。

○「今住んでいる地域の行事に参加している」「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」「日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思う」の質問について、肯定的回答の割合が国や県と比べて高かった。生活科や総合的な学習で地域のことを調べたり、児童会活動で、地域の文化財や祭りをテーマにしたウォークラリーを行ったりしていることによる成果が表れていると考えられる。今後も、低学年の頃から、自分たちが住んでいる地域に関心をもち、さらによくしていきたいという意欲を高めるような活動を取り入れていく。

○「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」の質問について、肯定的回答が国や県と比べて高かった。学校では、調べ学習に活用したり、自分の考えをまとめて発表したりする場面などでほぼ毎日使用している。今後もタブレットを上手く活用し、学習の中で役立てていけるように支援していく。

○「国語の勉強は好きですか」「国語の勉強は大切だと思いますか」「国語の授業の内容はよく分かりますか」など国語に関するすべての質問について肯定的回答の割合は、国や県と比べて高く、国語への学習意欲の高さが伺える。今後も、児童が主体的に取り組めるように、問題解決的な学習を継続して行っていく。

●「算数の勉強は好きですか」「算数の勉強は大切だと思いますか」など算数に関するすべての質問について、肯定的回答の割合が国や県と比べて低かった。生活の中で算数で学習したことが、どのように活用されているのかを示すことで、算数の学習への興味関心を高め、その大切さを実感させる。また、家庭でも進んで学習に取り組めるように、内容を検討して課題を出していく。

○「英語の勉強は好きですか」「将来、英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思いますか」「これまで、学校の授業以外で、英語を使う機会がありましたか」の質問についての肯定的回答の割合は、国や県と比べて高かった。家庭でも、週3回以上PC・タブレットなどのICT機器を使用して英語の学習をしている割合は、国や県と比べて高く、英語への学習意欲の高さが伺える。今後も、ALTと協力し、分かりやすく楽しい活動を取り入れ、中学校の学習につなげていく。

宇都宮市立西原小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・基礎・基本の確実な定着、児童の実態に応じたきめ細かな指導	・西原小「学習の約束」をもとに、基本的な学習態度を身に付けることができるよう、全教職員で共通理解を図っている。また、3～6年生は週に3回の朝の活動の時間をモジュール学習として確保し、指導計画表にも位置付けることで基礎基本の確実な定着を図る。	・6年生の国語は市の平均よりも10ポイントから15ポイント以上高い正答率であったが、算数においては、市の正答率とほぼ同等であり、領域によっては市や国の正答率を10ポイント近く下回ってしまったものもあった。学年が進むにつれ、学習内容も難しくなり、学力の定着も困難になってくるので、習熟度別の学習や日々の授業やモジュールなど朝の学習の時間の確保、家庭学習の指導の在り方を見直し、学校全体できめ細やかな指導を行っていく。
・主体的・対話的で深い学びを実現し、児童が学びを実感できる授業の展開	・昨年度までの研究の成果を生かした授業展開や児童が学びの実感を得られるような一人一授業の実践、それに伴った授業研究会を行う。 ・児童自身が課題を自分事とし、主体的に取り組むことができるようめあてや問いのめあせ方、児童が進んで学び続けたいくなるような振り返りの仕方など、授業の展開を工夫する。	・「国語の学習は好きですか」の問いに対する肯定的回答の割合は、市や国の値よりも高くなっており、同時に国語の正答率も高い。その反面、算数においては「好き」と肯定する回答率も低くなり、正答率も伸び悩んでいる結果が見られた。授業における学習課題を自分事とし、児童自ら課題を解決していく中で、「できた」「楽しい」と児童が感じ、「学びの実感」を得られるような授業展開を工夫していきたい。